

1. 意見

ダム建設(貯水量・水質確保と洪水防止)別紙

-----  
-----  
-----  
-----  
-----  
-----

(別紙)

## ダム建設による水量・水質確保と洪水防止

私は、名寄川で15年間に渡り水面利用のイベントを通して河川状況の変化を体験してきました。近年、(特に5～6年前)水量が極端に少なくなっており、水質の悪化によって水道水と河川環境を維持していけない状況と思います。

(日進橋付近の水量減少内容)

イベント名	時期	過去の状況	近年の状況
なよろタイムトル (名寄川の解氷予側)	2/上旬～ 4/上旬	3月の解氷時期には融雪水により川一面の結氷が高水敷まで数日に渡り数回隆起し一気に割れて流下。右岸の河畔林もなぎ倒す水量だった。	3月の解氷時期には少量の融雪水により若干隆起した後だらだらと解氷し一部の氷は川底に停滞する。
地元高校筏下り	7/上旬	豊富な水量で4名乗ってもスムーズに下れたので JR 鉄橋から天塩川合流点付近まで行っていた。	6月からの水量不足で筏が川底にあたりほとんど引っ張らなければならないため JR 鉄橋から日進橋までに縮小した。

一方、従前大雨による洪水は、9月から10月の台風期であったが、近年は春の高気圧状況での降雨と融雪の複合や爆弾低気圧といわれる現象が加わり、新たな被害が発生しています。昨年5月と10月の出水による冠水被害はその典型的なものでした。特に、10月は、名寄川の運動公園が造成されて始めて冠水しています。この様な増水によって河川環境も壊されています。

当地域の自然との共生では、人の生活を第一に考えて自然環境には最小限の負荷で開発をしてきたと思います。天塩川水系河川整備計画には、その配慮が充分なされています。

サンルダムの早期建設で、安定した水量(調整)を確保し、安全な生活が営めるよう願うものです。

19. 1. 23 名寄市：森田義直